



天皇皇后両陛下

第63回 全国植樹祭 やまぐち 2012

育むいのち 彩りの森・光る海・碧い空 燦めきの発進

5月27日、第63回全国植樹祭が山口県山口市阿知須の山口きらら博記念公園を式典会場として開催されました。

全国植樹祭は、国土の緑化や豊かな森林づくりへの理解を深めるため、毎年春に天皇皇后両陛下のご臨席のもと、公益社団法人国土緑化推進機構と開催県によって共催される国土緑化運動の中心的な全国行事です。

昭和25年に山梨県で開催された第1回大会以降、毎年各都道府県を巡って開催され、山口県では昭和31年に防府市で開催された第7回大会以来、56年ぶり2回目の開催となります。



天皇陛下によるお手植え



皇后陛下によるお手植え

「育むいのち」をテーマに

山口県の開催テーマは「育むいのち 彩りの森・光る海・碧い空 燦めきの発進」。会場となったきらら浜は総面積286ヘクタールの広大な干拓地で、全国植樹祭としては初めての海浜部での開催となりました。

約9300人の参加者が見守るなか、竹で作った楽器を演奏する県民楽団やまぐちパンブーオーケストラの演奏と、緑の少年隊など約290人のダンスチームが舞う森・川・海のつながりを表現した創作ダンスパフォーマンスによるプロローグアトラクションが式典の始まりを告げた後、今大会のシンボルマーク等、公募された優秀作品に対して感謝状の贈呈が行われました。

また、東日本大震災の津波で流失した海岸林の早期再生を支援するため、山口県産の緑化樹木が岩手県・宮城

県・福島県に贈られたほか、山口県知事へのふるさと記念切手贈呈などが行われました。

新しい森林づくりへ

開会挨拶、三旗掲揚、国歌斉唱で幕を開けた式典では、大会会長の国土緑化推進機構会長・横路孝弘衆議院議長が「震災からの復興のなか、自然への畏敬の念や、人と人とのつながりが再認識され、自然とともに豊かに生きる社会の構築が望まれています。多様な恵みやいのちを育む森林を未来に残していくためには、被災地における森林・林業の復興はもとより、適切な間伐や再造林などにより、森林の整備・保全を進めていくことが重要です」と挨拶。

二井関成・山口県知事は「本植樹祭を通じて、それぞれの皆さんがきらら浜の舞台から具体的な行動を起こし、かけがえのない森林を次世代に継承していく運動を大きく広げていただくことを願っています」と開催県を代表して挨拶を述べました。

その後、国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール、緑化功労者全日本学校関係緑化コンクール、山口県緑化功労受賞者の表彰が行われ、「みどりのホームステイ」として昨年から家庭や学校で育てられた苗木が緑の少年隊から鹿野道彦農林水産大臣(当時)

などに贈られました。

次に行われた天皇皇后両陛下のお手植え・お手播きでは、天皇陛下はアカマツ(抵抗性マツ)、クスノキ、シイノキ(スダジイ)を植樹され、ヒノキとイチガシの種子を播かれました。また、皇后陛下はクロマツ(抵抗性マツ)、ヤブツバキ、山口県花のナツミカンを植樹され、スギ少花粉スギとイロハモミジの種子を播かれました。いずれも山口県の歴史や文化、生活と関わりが深い樹種で、両陛下は介添え役を務めた緑の少年隊の隊員たちにお声をかけながら、丁寧に植樹、播種されました。続いてのアトラクションの後、植樹祭のシンボルである「木製の地球儀」が来年の開催県である鳥取県の平井伸治知事へと贈られ、式典は幕を閉じました。



鹿野大臣(当時)への苗木の贈呈
山口県提供(時事通信社撮影)



植樹を行う鹿野道彦農林水産大臣(当時)
山口県提供(時事通信社撮影)

震災からの早期復興を願って

今回の植樹祭では東日本大震災の被災地の早期復興を願って、植樹会場内に「復興の森」が設けられ、被災地からの招待者が植樹をしました。また、関連イベント「きららの森フェスタ」には、東日本大震災義援金の受付や東北地方の物販販売等を行う復興支援ブースが設置されました。さらにシンボルマーク「やまりん」のピンバッジによる緑の募金の一部が岩手県・宮城県・福島県に贈られます。

植樹行事では、24日から行われた自由植樹と、式典の参加者による植樹を

あわせて35種類・約2万本の苗木が植えられ、会場となったきらら浜の北部エリアは「きららの森」として整備される予定です。



第63回全国植樹祭の
シンボルマーク「やまりん」

